

# 令和4年度 神代植物公園植物多様性センター事業年報

公益財団法人東京都公園協会 神代植物公園 植物多様性センター長

田中 利彦

## I. はじめに

植物多様性の損失が懸念されている中、神代植物公園では他の植物園と連携して絶滅危惧植物の保護・増殖等を行う「植物多様性保全拠点園」としての活動に取り組んできた。

神代植物公園植物多様性センターは、都内における植物多様性保全をより一層推進するため、保全上の様々な機能を総合的に担う拠点施設となることを目的に、平成24年4月に開設された。令和4年度には、開設10周年を迎えることができた。開設当初から公益財団法人東京都公園協会が管理運営を受託し、平成28年度より指定管理者として職員10名の体制で執行している。

植物多様性センターの敷地は約26,000㎡あり、その中には情報館(650㎡)、学習園(16,000㎡)、栽培温室(200㎡)の施設がある。

情報館は、東京の植生図や丘陵地の公園を紹介するパネル展示や図書文献が閲覧できるライブラリーコーナー等、植物多様性に関する展示・解説を行っている。

学習園は、山地や石灰岩地を再現した奥多摩ゾーン、河原や雑木林を再現した武蔵野ゾーン、海岸や火山地形を再現した伊豆諸島ゾーンと、東京を代表する自然環境を再現した3つのゾーンを設け、それぞれの環境に合った植物を展示している。

植物多様性センターの事業は、次の3つを軸に展開している。

1. 絶滅危惧植物の保護・増殖
2. 絶滅危惧植物に関する情報収集・発信
3. 植物多様性に関する教育・普及

絶滅危惧植物の保護・増殖については、平成19年度から25年度まで神代植物公園において「絶滅危惧植物保全調査」の検討と実施、及び「絶滅危惧植物保全計画」の策定を行い、都内の絶滅危惧植物の生育状況の把握と保全対象種の検討を行ってきた。当該計画では、植物多様性センターが重点的に保全する植物種を「優先保全対象種」として118種(本土部43種及び島嶼部75種)選定し、平成25年度に策定した保全策に基づき、それら植物種の現地調査等の生息域内保全や種子採取・無菌培養による増殖等の生息域外保全を平成26年度から行っている。

絶滅危惧植物に関する情報収集・発信については、関係機関や保全団体とのネットワークを活かし、都内における絶滅危惧植物の現状と保全に向けた取組状況を把握した上で、情報拠点として各活動団体等が行う保全・保護・増殖活動に有効な支援を行うことを目的としている。また植物多様性センターでは、保全団体や愛好家等と学識経験者、公園管理者、行政

機関が参加する情報連絡会を開催し、各団体等の取組について意見交換や情報交換を行っている。

植物多様性に関する教育・普及については、近隣の小中学校や農学系の大学生等へ環境学習プログラムを企画立案し、教育普及活動を行っている。職員やボランティアによる園内のガイドツアーを実施するほか、職員や専門家による講座を開催している。

また令和4年度は開設10周年を迎え、記念誌の作成や記念講座の開催といった取り組みを行った。

本報告は、植物多様性センターが令和4年度に実施した事業や取り組みを年報としてとりまとめたものであり、植物多様性センターへのご理解とご支援をいただく上での参考として、また今後事業や取り組みの進展を図る上で、技術の向上や事業の推進に役立たせることができればと考えている。

## II. 絶滅危惧植物の保護増殖に関する取り組み

### 1 優先保全対象種等の植物調査

#### (1) 本土部における優先保全対象種の調査

本土部において令和4年度に実施した優先保全対象種の調査を、表1に示した。令和4年度は3種7地点の調査を実施した。

表1 本土部における優先保全対象種の調査

No.	調査日	種名	調査概要
1	9月15日	ヒナノキンチャク	個体の確認はできなかった。消失した可能性がある。
2	9月15日	ヒナノキンチャク	新たに得られた情報に基づいて、現地調査を実施。企業所有地（採石場跡地）の50m×200mの範囲に、多数の生育を確認。
3	10月6日	ステゴビル	300株以上を確認。都立公園敷地内であり、公園管理者によって環境管理が行われていて、個体数が増加している。
4	10月6日	ステゴビル	個体の確認はできなかった。植生遷移の進行により、消失した可能性がある。近傍で50～60株の生育を確認し、開花・結実していた。
5	10月6日	ステゴビル	近接する2か所で生育しており、いずれも数百個体を確認。開花・結実も確認した。
6	10月28日	ウラギク	2012年に続き、今回も確認することはできなかった。
7	12月25日	ウラギク	冬季のため地上部が枯損しており、個体を確認することはできなかった。公園管理者からの情報によれば、今年度10株程度、近隣で20株程度を確認しているとのこと。

## (2) 島嶼部における優先保全対象種の調査

島嶼部において令和4年度に実施した優先保全対象種の調査を、表2に示した。令和2年度及び3年度は新型コロナウイルス感染症 (COVID - 19) の感染拡大予防のため島嶼部での調査を実施しなかったため、3年ぶりの調査の実施となり、神津島と利島において17種20地点の調査を実施した。

表2 島嶼部における優先保全対象種の調査

No.	調査日	種名	調査概要
1	10月17日	オトギリソウ	36個体を確認。草刈りにより生育環境が維持されている。
2	10月17日	ハチジョウオトギリ	多数の生育を確認。風衝地のため、遷移が進んでいない。
3	10月17日	ヒナノシャクジョウ	個体の確認はできなかった。
4	10月17日	ホンゴウソウ	2か所で調査を実施。1か所では個体の確認はできなかった。もう1か所では、近隣で4個体確認することができた。
5	10月17日	ウスギムヨウラン	個体の確認はできなかった。
6	10月17日	ナゴラン	7個体確認。生育環境は安定しているものと考えられる。
7	10月17日	ギンラン	個体の確認はできなかった。消失か休眠の可能性はある。
8	10月18日	マツバラ	50個体以上を確認。環境が安定している。胞子実生と思われる個体が複数あり、株数は今後も増加する可能性がある。
9	10月18日	カワラケツメイ	2か所で調査を実施。1か所では個体の確認はできなかった。もう1か所では、近隣で1個体確認することができた。
10	10月18日	ヤマジソ	多数の生育を確認。風衝地のため、遷移が進んでいない。
11	10月18日	ツリガネニンジン (ハマシャジン)	3か所で調査を実施。2か所で個体を確認することができた。
12	10月18日	アマドコロ	2か所で調査を実施。2か所とも多数の個体を確認することができた。
13	10月18日	コウツエビネ	2個体確認。盗掘される危険性が高い。
14	10月18日	ギンラン	個体の確認はできなかった。環境の変更のため、消失したものと考えられる。
15	10月19日	オトギリソウ	近隣で2個体確認。植生遷移の進行により、環境が変化している。
16	10月19日	カワラケツメイ	個体の確認はできなかった。管理により刈り取られた可能性が高い。
17	10月19日	キキョウ	2個体確認。生育環境は維持されているが、盗掘される危険性がある。
18	10月19日	ユキヨモギ	個体の確認はできなかった。白みの強いヨモギを、誤認していた可能性がある。
19	10月19日	マヤラン	個体の確認はできなかった。消失の可能性が高い。
20	11月7日	テイショウソウ	10個体確認。ヒロハテイショウソウと考えられる。

### (3) 優先保全対象種以外の絶滅危惧植物の調査

本土部において令和4年度に実施した、優先保全対象種以外の絶滅危惧植物の調査を、表3に示した。

表3 優先保全対象種以外の絶滅危惧植物の調査

No.	調査日	種名	調査概要
1	5月13日	エビラシダ	1箇所15個体確認。遊歩道沿いの石垣に自生。東京都による改修工事のため、6個体を域内保全として近隣の適地に移植。他は植物多様性センターで域外保全とした。
2	10月26日	ヒメシオン	お客様から寄せられた情報を元に、現地調査を実施。1箇所50個体程度を確認。



写真1 エビラシダの調査



写真2 エビラシダ

## 2 東京都内における生息域外保全

これまでに植物多様性センターで実施した、東京都内における生息域外保全の実績を、表4～表6に示した。

表4 東京都内における生息域外保全の実績(1/3)

No.	種名	場所	採取日	備考
1	イズノシマホシクサ	島嶼部	平成26年9月26日 種子採取 平成30年8月29日 種子採取 平成30年8月30日 種子採取	平成26年より継続・栽培
2	ウチョウラン	本土部	平成27年10月1日 種子採取	新宿御苑へ送付(しいな)
3	オオシマシュスラン	島嶼部	平成27年1月20日 種子採取	新宿御苑へ送付
4	キキョウ	本土部	平成27年9月30日 種子採取	新宿御苑へ送付

表5 東京都内における生息域外保全の実績(2/3)

No.	種名	場所	採取日	備考
5	キンラン	島嶼部	平成26年9月3日 種子採取	平成26年より継続・無菌培養
6	クマガイソウ	島嶼部	平成26年9月3日 種子採取 平成30年9月11日 種子採取	平成26年より継続・無菌培養 平成30年4月10日に人工授粉を行い、9蒴果のうち5蒴果を採取した。 新宿御苑、富山県中央植物園へ送付
7	コウズエビネ	島嶼部	平成26年9月27日 種子採取	無菌培養、平成26年より継続・無菌培養(2系統)
8	コウズエビネ	島嶼部	平成27年10月5日 種子採取	新宿御苑へ送付・無菌培養(2系統)
9	シムライノデ	本土部	平成30年2月15日 個体受取	栽培、危険分散のため国立科学博物館筑波実験植物園へ送付
10	シラン	本土部	平成27年9月15日 種子採取	案内人の依頼及び盗掘の恐れがあることから種子採取による域外保全を行った 新宿御苑へ送付、栽培
11	ナギラン	島嶼部	平成26年9月3日 種子採取	平成26年より継続・無菌培養(対象外だがキョンの食害で消失の恐れがあるため採取)
12	ナギラン	島嶼部	平成28年10月27日 種子採取	平成28年より無菌播種、新宿御苑へ送付
13	ナゴラン	島嶼部	平成27年7月7日 個体受取	栽培
14	ナツエビネ	島嶼部	平成29年11月8日 種子採取	新宿御苑へ送付、無菌培養
15	ニオイエビネ	島嶼部	平成28年10月27日 種子採取	無菌培養、新宿御苑へ送付(自生地消失のため代替地で採取)
16	ハマカキラン	本土部	平成28年8月6日 種子採取	新宿御苑へ送付
17	ヒイラギソウ	本土部	平成27年9月30日 個体採取	挿し木にて栽培、平成26年より継続・栽培
18	ヒナノキンチャク	本土部	平成29年11月16日 種子採取	栽培、新宿御苑へ送付
19	ヒナワチガイソウ	本土部	平成27年4月30日 種子採取	新宿御苑へ送付、生活史調査及び栽培
20	フウラン	島嶼部	平成28年11月1日 種子採取	無菌培養
21	マメヅタラン	島嶼部	平成26年9月26日 個体採取	平成26年より継続・栽培
22	ミクラジマトウヒレン	島嶼部	平成27年11月17日 種子採取	案内人の依頼により種子採取による域外保全を行った 新宿御苑、富山県中央植物園へ送付、栽培

表6 東京都内における生息域外保全の実績(3/3)

No.	種名	場所	採取日	備考
23	ミズネコノオ	本土部	平成27年10月14日 種子採取	案内人の依頼により種子採取による域外保全を行った 新宿御苑へ送付
24	ムサシノキスゲ	本土部	平成29年7月13日 種子採取 平成29年7月28日 個体採取	栽培、東京大学及び新宿御苑へ送付
25	ユウシュンラン	本土部	平成28年1月22日 種子採取	指定対象種は過去の自生情報のみのため、他の 自生地から採種 新宿御苑へ送付・無菌培養
26	ハチジョウツレサギ	島嶼部	平成30年10月6日 種子採取	新宿御苑へ送付
27	バアソブ	本土部	平成30年10月3日 種子採取	新宿御苑へ送付、栽培
28	ハタザオ	本土部	平成29年11月28日 種子採取	新宿御苑へ送付、栽培
29	シマキンレイカ	島嶼部	平成30年10月7日 種子採取	新宿御苑へ送付
30	ウラジロヒカゲツツジ	本土部	平成30年10月29日 種子、個体採取	新宿御苑へ種子送付、新潟県立植物園へ個体送付
31	カイコバイモ	本土部	令和1年5月10日 種子採取	栽培、新宿御苑、国立科学博物館筑波実験植物園へ送付
32	ツレサギソウ	本土部	令和1年9月3日 種子採取	無菌培養
33	クロヤツシロラン	本土部	令和1年12月17日 種子採取	無菌培養
34	フジバカマ	本土部	令和2年12月25日 種子採取	栽培
35	エビラシダ	本土部	令和4年5月13日 個体採取	栽培
36	ヒナノキンチャク	本土部	令和4年9月15日 種子、個体採取	新宿御苑へ種子送付、個体は栽培
37	ヒメシオン	本土部	令和4年10月13日 個体受取	栽培
38	ステゴビル	本土部	令和4年10月22日 種子、個体採取	種子保存、個体は栽培
39	フウラン	島嶼部	令和4年11月13日 個体受取	栽培
40	セッコク	島嶼部	令和5年2月5日 個体受取	栽培
41	ナゴラン	島嶼部	令和5年2月5日 個体受取	栽培

### 3. 建設局等の事業に対する絶滅危惧植物等の保全に対する取り組みへの支援

令和4年度に実施した、東京都建設局等の事業に対する絶滅危惧植物等の保全に対する取り組みへの支援の実績を、表7に示した。

表7 東京都建設局事業等に対する絶滅危惧植物等の保全に対する取り組みへの支援の実績

事務所・担当部署	状況	植物名・数量等	日付	支援内容
環境局奥多摩ビジターセンター	遊歩道脇石垣改修に伴う希少植物の保全（移植）	エビラシダ 15株	5月13日	6株を近隣の適地に移植し、9株を植物多様性センターにて生息域外保全
建設局西多摩建設事務所 工事第一課	道路拡張工事に伴う希少植物の保全（移植）	カリガネソウ 2株	1月18日	移植個体管理に関する技術助言の実施
建設局北多摩南部建設事務所 工事第一課環境対策担当	関戸橋架替事業に伴う希少植物の保全	カワラノギク 種子約12,000粒	2月16日	種子の保存及び前年度受入分の一部返却

## Ⅲ. 絶滅危惧植物の情報収集・発信に関する取り組み

### 1 植物多様性センター蔵書数

植物多様性センターでは、情報館内ライブラリーコーナーにおいて、植物に関する書籍や保全団体発行の研究報告等の収集を行っている。

蔵書数を表8に示した。令和4年度は新たに30点の収集を行い、累積収集数は1,487点となった。

表8 植物多様性センター蔵書数

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	計
冊数	187	288	215	257	63	112	87	104	130	30	14	1,487

### 2 神代植物公園植物多様性保全に関する情報連絡会

植物多様性センターでは毎年、東京都西部公園緑地事務所と共催で、学識経験者や地域植物保全団体等との情報や意見の交換により、植物多様性保全事業に資することを目的とした情報連絡会を、本土部と島嶼部に分けて開催している。令和2年度及び3年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止のため書面開催としたので、3年ぶりの集合形式による開催となった。情報連絡会の参加者数を、表9に示した。

表9 情報連絡会の参加者数

区分	開催日	参加者数		
		保全団体等	オブザーバー	事務局等
本土部	2月19日	25	26	15
島嶼部	2月5日	12	2	15



写真3 情報連絡会の開催（本土部）



写真4 情報連絡会の開催（島嶼部）

### 3 ホームページの「お知らせ」

植物多様性センターでは毎週1回、ホームページの「お知らせ」を更新し、見ごろの植物を紹介している。令和4年度の「お知らせ」のタイトルを、表10に示した。

表10 ホームページの「お知らせ」タイトル

No.	更新日	タイトル	No.	更新日	タイトル
1	4月1日	カナビキソウの発芽	28	10月7日	続エノキグサ
2	4月8日	ヤハズエンドウの花外蜜線	29	10月14日	イヌマキの実
3	4月15日	アワブキの展葉	30	10月21日	イヌタデのつぼみ？
4	4月22日	インガ（陰芽）の目覚め	31	10月28日	2種のキンミズヒキの果実
5	4月29日	ミツバウツギの小宇宙	32	11月4日	めでたい？キチジョウソウ
6	5月6日	ナワシログミの実	33	11月11日	旅するノブキ
7	5月13日	メグスリノキも性転換！	34	11月18日	オトコヨウソメの葉、セ？変化
8	5月20日	クリメコブズイフシ	35	11月25日	バアソブとジイソブ
9	5月27日	ネジキの花	36	12月2日	ヤマノイモとオニドコロ
10	6月3日	イヨカズラの花	37	12月9日	ノブドウの変身
11	6月10日	タチクラマゴケの孢子嚢	38	12月16日	アカシデの不思議な冬芽
12	6月17日	ヤセウツボ	39	12月23日	ヤブランとヒメヤブラン
13	6月24日	カナビキソウの初開花	40	12月30日	ツノハシバミの雌花はどれ？
14	7月1日	ムクロジの雌花を探してみよう	41	1月6日	ナガバジャノヒゲの長老
15	7月8日	謎の白いふわふわ	42	1月13日	ビワの初開花
16	7月15日	アサザの都市伝説	43	1月20日	イヌブナ、ブナ、それとも？
17	7月22日	オオカモメヅルの小さな花	44	1月27日	ナワシログミの共生菌
18	7月29日	オニドコロの雄株と雌株	45	2月3日	雑木林とフユシャク
19	8月5日	クサネムの莢の船	46	2月10日	ススキの血は赤色か
20	8月12日	マメ科の花のすゝめ	47	2月17日	ロープ柵の小さなコケたち
21	8月19日	バツタと植物	48	2月24日	ガガイモの開かずの果実
22	8月26日	エノキグサの小さな花	49	3月3日	ヤナギの季節
23	9月2日	ピナンカズラの性別	50	3月10日	ホトケノザの開放花と閉鎖花
24	9月9日	ガガイモの花	51	3月17日	早春の訪問者たち
25	9月16日	キキョウ科の異端児	52	3月24日	なぞタンポポ同定への手がかり
26	9月23日	オケラとオケラ	53	3月31日	落ちない葉の落葉
27	9月30日	ツユクサの2種類のおしべ			

#### 4 10周年記念誌の作成

植物多様性センター10周年記念事業として、令和3年4月より準備を進めてきた、『開設10周年記念誌 神代植物公園 植物多様性センター ガイドブック』が完成した。A4判110ページで、学習園で見られる植物の紹介、植物目録、無菌培養の取り組み、これまでのエントランス展示・講座・学習プログラムの活動記録を掲載している。

記念誌は植物多様性センター情報館及び神代植物公園本園植物会館で閲覧できるほか、植物多様性センターホームページでの公開を行っている。

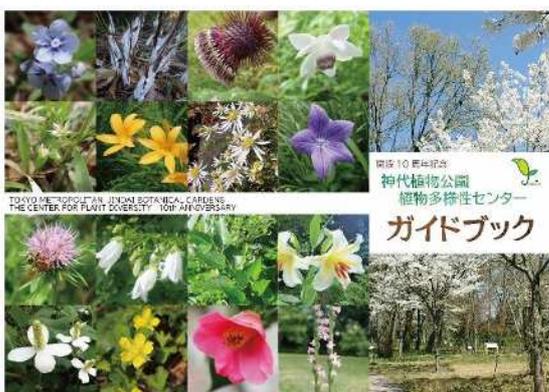


写真5 10周年記念誌（表紙）



写真6 10周年記念誌（学習園の植物紹介）

### IV. 植物多様性の教育・普及に関する取り組み

#### 1 エントランス展示

植物多様性センターでは情報館内のエントランス展示を、年に数回更新している。令和4年度のエントランス展示の実施概要を、表11に示した。

表11 エントランス展示の実施概要

期間	タイトル
4月1日～5月30日	植物の繊維
5月31日～7月15日	日本の帰化植物
7月16日～9月30日	観察レポートをつくろう！
10月1日～11月30日	シダ植物入門
12月1日～3月31日	冬芽を探そう！

また令和4年度は常設展示として、情報館内に新たに「動物コーナー」及び「無菌培養コーナー」を設けた。



写真7 観察レポートをつくろう！



写真8 無菌培養コーナー

## 2 ガイドツアーの回数と参加者

植物多様性センターでは毎週土曜日・日曜日に、来園者を対象としたガイドツアーを実施してきた。新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）の感染拡大防止のため、令和2年3月以降は中止と再開を繰り返していたが、令和4年6月より原則毎月第2・第4日曜日の開催として再開した。令和4年度の実施回数と参加人数を、表12に示した。

表12 ガイドツアーの実施状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
回数	0	0	2	2	0	2	2	2	1	0	2	2	15
参加人数	0	0	20	20	0	12	20	14	6	0	20	19	131

## 3 団体ガイド

植物多様性センターでは原則1か月に2団体を上限として、団体ガイドを実施している。令和4年度の実施状況を、表13に示した。

表13 団体ガイドの実施状況

No.	月	団体名	参加人数
1	5	新日本婦人の会三鷹支部	7
2	6	草花で街を明るくする会	21
3	9	カワセミの家ボランティア	6
4	9	一般社団法人林業薬剤協会	10
5	10	法政大学OB会	9
6	3	世田谷区しらさぎ歩行会	15
計			68

#### 4 学習園植栽植物

令和4年度に来園者の観察・学習を目的として、温室やバックヤードから学習園に植栽した植物の一覧を、表14～表17に示した。

表14 学習園植栽植物一覧 (1/4)

No.	月	種名	植栽地	
			ゾーン	エリア
1	4	タチタネツケバナ	奥多摩	石灰岩地
2	4	ヒナワチガイソウ	管理	フクジュソウ園
3	4	イソヤマテンツキ	管理	バックヤード
4	4	スギ	管理	旧球根
5	4	オトコエシ	武蔵野	高茎草地
6	4	ムラサキニガナ	管理	奥多摩
7	4	オオムラサキシキブ	管理	伊豆極相林
8	4	シマホタルブクロ	管理	伊豆極相林
9	4	イズノシマダイモンジソウ	管理	伊豆極相林
10	4	タチバナ	管理	伊豆極相林
11	4	ヤナギイチゴ	管理	伊豆極相林
12	4	ハマナデシコ	管理	伊豆極相林
13	4	ハマコンギク	管理	伊豆極相林
14	4	セキヤノアキチヨウジ	奥多摩	落葉広葉樹林
15	4	タガネソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
16	4	ヒカゲスゲ	奥多摩	落葉広葉樹林
17	4	レンリソウ	奥多摩	石灰岩地
18	4	ゲンゲ	管理	バックヤード
19	4	バイカツツジ	奥多摩	落葉広葉樹林
20	4	トウゴクミツバツツジ	奥多摩	石灰岩地
21	5	メハジキ	奥多摩	石灰岩地
22	5	ミヤコグサ	奥多摩	湿生林
23	5	イシミカワ	奥多摩	湿生林
24	5	ムラサキニガナ	管理	奥多摩
25	5	オオヒナノウスツボ	奥多摩	石灰岩地
26	5	ハグロソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
27	5	フジカンゾウ	管理	奥多摩
28	5	タガネソウ	奥多摩	池回り
29	5	オウギカズラ	管理	奥多摩
30	5	バッコヤナギ	奥多摩	石灰岩地
31	5	イヌコリヤナギ	奥多摩	石灰岩地
32	5	キツネヤナギ	奥多摩	石灰岩地
33	5	ウラジロ	奥多摩	石灰岩地
34	5	ミシマサイコ	奥多摩	石灰岩地
35	5	アカソ	奥多摩	石灰岩地

表15 学習園植栽植物一覧 (2/4)

No.	月	種名	植栽地	
			ゾーン	エリア
36	5	ヤマオダマキ	奥多摩	石灰岩地
37	5	ワレモコウ	奥多摩	石灰岩地
38	5	オノエヤナギ	奥多摩	石灰岩地
39	5	オオバアサガラ	奥多摩	湿生林
40	5	ウマノアシガタ	奥多摩	石灰岩地
41	5	ヤクシソウ	奥多摩	石灰岩地
42	5	ヤマユリ	武蔵野	雑木林
43	5	ヒヨドリバナ	武蔵野	雑木林
44	5	キツネノカミソリ	武蔵野	雑木林
45	5	ヒトリシズカ	武蔵野	雑木林
46	5	ニリンソウ	武蔵野	雑木林
47	5	ケカモノハシ	伊豆諸島	海岸砂地
48	5	ビロードテンツキ	伊豆諸島	海岸砂地
49	5	ネコノシタ	伊豆諸島	海岸砂地
50	5	ハマアザミ	伊豆諸島	海岸砂地
51	5	ハチジョウアザミ	管理	伊豆極相林
52	6	ツルニガクサ	管理	奥多摩
53	6	ヤブソテツ	管理	奥多摩
54	6	イネ緑米	管理	バックヤード
55	6	アイアシ	管理	バックヤード
56	7	コオニユリ	奥多摩	落葉広葉樹林
57	7	ヒメウツギ	奥多摩	落葉広葉樹林
58	7	ヒメキンミズヒキ	奥多摩	落葉広葉樹林
59	7	タツノヒゲ	奥多摩	落葉広葉樹林
60	7	ヤマスズメノヒエ	奥多摩	落葉広葉樹林
61	8	イケノヤナギ	武蔵野	池回り
62	8	ツルニガクサ	武蔵野	池回り
63	8	カラムシ	武蔵野	池回り
64	8	サワギキョウ	武蔵野	池回り
65	8	サワギキョウ	管理	バックヤード
66	8	オグルマ	武蔵野	池回り
67	8	ギョウギシバ	武蔵野	礫地
68	8	ムラサキエノコロ	武蔵野	礫地
69	8	ムラサキニガナ	武蔵野	礫地
70	8	レモンエゴマ	武蔵野	礫地
71	8	ナミキソウ	武蔵野	礫地
72	8	ノコンギク	武蔵野	礫地
73	8	オヒシバ	奥多摩	イネ科植物コーナー
74	8	メヒシバ	奥多摩	イネ科植物コーナー

表16 学習園植栽植物一覧 (3/4)

No.	月	種名	植栽地	
			ゾーン	エリア
75	8	コメヒシバ	奥多摩	イネ科植物コーナー
76	8	アキメヒシバ	奥多摩	イネ科植物コーナー
77	8	ナルコビエ	奥多摩	イネ科植物コーナー
78	8	スズメノヒエ	奥多摩	イネ科植物コーナー
79	8	エオノコログサ	奥多摩	イネ科植物コーナー
80	8	アキノエノコログサ	奥多摩	イネ科植物コーナー
81	8	キンエノコロ	奥多摩	イネ科植物コーナー
82	8	ニワホコリ	奥多摩	イネ科植物コーナー
83	8	コスズメガヤ	奥多摩	イネ科植物コーナー
84	8	ケチジミザサ	奥多摩	イネ科植物コーナー
85	8	ササガヤ	奥多摩	イネ科植物コーナー
86	8	アシボソ	奥多摩	イネ科植物コーナー
87	8	コブナグサ	奥多摩	イネ科植物コーナー
88	9	ガンクビソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
89	9	コシオガマ	奥多摩	落葉広葉樹林
90	9	ヒメクグ	武蔵野	池回り
91	9	ハチオウジアザミ	武蔵野	池回り
92	9	アカソ	武蔵野	池回り
93	10	アリアケスミレ	武蔵野	低茎草地
94	10	カワラハハコ	武蔵野	礫地
95	10	アカシデ	管理	バックヤード
96	10	オノエヤナギ	武蔵野	池回り
97	10	キツネヤナギ	武蔵野	池回り
98	10	イヌコリヤナギ	武蔵野	池回り
99	10	カラスザンショウ	武蔵野	池回り
100	10	コゴメヤナギ	武蔵野	池回り
101	10	ヨシ	武蔵野	池回り
102	10	バッコヤナギ	武蔵野	池回り
103	10	コウヤワラビ	武蔵野	池回り
104	10	ネズミガヤ	奥多摩	落葉広葉樹林
105	10	エイザンスミレ	奥多摩	落葉広葉樹林
106	10	ヤブデマリ	武蔵野	池回り
107	10	ウリノキ	武蔵野	池回り
108	11	トウオオバコ	管理	バックヤード
109	12	ムラサキニガナ	管理	フクジュソウ園
110	2	キブシ	武蔵野	低木
111	2	センリョウ	武蔵野	雑木林
112	2	カンガレイ	武蔵野	低茎草地
113	2	ホソイ	武蔵野	低茎草地

表17 学習園植栽植物一覧 (4/4)

No.	月	種名	植栽地	
			ゾーン	エリア
114	3	センリョウ	管理	伊豆極相林
115	3	カラタチバナ	管理	伊豆極相林
116	3	アワブキ	管理	奥多摩
117	3	ムシクサ	管理	バックヤード
118	3	アカバナ	管理	バックヤード
119	3	コムラサキ	武蔵野	池回り
120	3	ナシ	武蔵野	果樹林
121	3	コムラサキ	武蔵野	低茎草地
122	3	ミゾコウジュ	武蔵野	低茎草地
123	3	ハッカ	武蔵野	低茎草地
124	3	ゴキヅル	武蔵野	低茎草地
125	3	カシワ	奥多摩	落葉広葉樹林
126	3	オシダ	奥多摩	四阿周辺
127	3	ワレモコウ	奥多摩	石灰岩地
128	3	ヒナワチガイソウ	管理	フクジュソウ園
129	3	ヒナワチガイソウ	武蔵野	雑木林
130	3	コシロネ	武蔵野	低茎草地
131	3	オヘビイチゴ	武蔵野	低茎草地
132	3	キセルアザミ	武蔵野	低茎草地
133	3	アカバナ	武蔵野	低茎草地



写真9 オウギカズラ



写真10 ケカモノハシ

## 5 植物多様性に関する講座

植物多様性センターでは植物や生物多様性に関する講座を、事前申し込み制で実施している。令和4年度の実施状況を、表18に示した。

令和4年度の講座は、“植物多様性センター開設10周年記念講座”と銘打って行った。特に4月29日に開催した第1回講座は、植物多様性センターアドバイザーの筑波実験植物園遊川知久氏を講師としてお招きし、参加者定員を増やして神代植物公園本園大集会室で開催した。また7月30日に開催した第3回講座は、植物多様性センター初の夜間開園を実施し、調布市の協力により、オンライン配信を行った。

表18 植物多様性に関する講座の実施状況

No.	実施日	時間	題	講師	参加人数
1	4月29日	13:30~15:30	シラン、ワカラン、ランの七不思議	遊川 知久氏	63
2	7月23日	13:30~15:30	第14回「みんなで守ろう日本の野生ラン」シンポジウム (オンライン)	平野 智也氏 伊藤 彩乃氏 清水 尚之氏	70
3	7月30日	18:00~20:00	ようこそ！夜の植物多様性センターへ	石川 和宏氏 センター職員	31
4	8月28日	13:30~15:30	スライドショーで楽しむガイドツアー スペシャル2022夏	センター職員	28
5	9月25日	13:30~15:00	初めてさんのためのシダ入門講座	センター職員	18
6	11月12日	13:30~15:30	子ども樹木博士になろう！	杉浦 克明氏	8
7	12月18日	13:30~15:30	日本の絶滅危惧植物の現状と今後の保全 に向けて	藤田 卓氏	19
8	1月29日	13:30~15:30	狭山丘陵都立公園における生物保全の 現状と今後	舟木 匡志氏	23
9	3月4日	13:30~15:30	わぴちゃんのタンポポワンダーランド	岩槻 秀明氏	32
合計					292



写真11 シラン、ワカラン、ランの七不思議



写真12 ようこそ！夜の植物多様性センターへ

## 6 植物多様性センター外部の展示

植物多様性センターでは生物多様性保全の普及を目的として、他の公園・植物園等においてパネルの展示を実施している。令和4年度の実施状況を、表19に示した。

表19 外部展示の実施状況

No.	展示期間	場所	No.	展示期間	場所
1	4月15日～4月24日	豊橋総合動植物公園	4	4月1日～3月31日	東村山中央公園
2	4月1日～3月31日	東南植物楽園	5	3月1日～3月31日	小峰公園
3	4月1日～3月31日	武蔵丘陵森林公園			

## 7 植物多様性センター外部の講座

植物多様性センターでは植物保全や生物多様性保全の普及を目的として、依頼に応じて外部での講座を実施している。令和4年度の実施状況を、表20に示した。

表20 外部での講座の実施状況

No.	実施日	参加人数	題	場所
1	3月25日	8	春の植物観察会	小山内裏公園

## 8 学習プログラム

植物多様性センターでは原則1か月に2団体を上限として、小学校や各種団体向けに、植物をテーマとした学習プログラムを実施している。令和4年度の実施状況を、表21に示した。

表21 学習プログラム実施状況

No.	実施月	団体名	人数
1	4	自由学園リビングアカデミー	6
2	4	日本大学森林科学部	15
3	4	調布市立北ノ台小学校	124
4	6	調布市立北ノ台小学校	129
5	6	東京都立大学プレミアムカレッジ	31
6	7	府中市教育研究中学校理科部	7
7	8	シモキタ園藝部	18
8	8	明星大学インターンシップ	1
9	11	東京農業大学インターンシップ	2
10	11	調布市立北ノ台小学校	130
11	1	調布市立北ノ台小学校	64
12	2	調布市立北ノ台小学校	63
合計			590



写真13 日本大学森林科学部



写真14 調布市立北ノ台小学校

## V. その他

### 1 来館者数

令和4年度及び過去2年間の植物多様性センター内情報館の来館者数を、表22及び図1に示した。令和4年度の来館者数は平成24年4月の開設以来最多の35,965人に達した。

なお平成31年度から令和3年度まで、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止のため、数日から数か月の臨時休園措置を繰り返したが、令和4年度は臨時休園措置を行わなかった。

表22 情報館来館者数の推移

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2	0	0	2,860	2,223	2,466	2,710	3,131	3,335	1,832	0	0	0	18,557
R3	0	0	2,298	2,132	1,720	2,796	2,557	3,457	2,418	1,075	0	1,227	19,680
R4	3,497	3,856	2,960	2,144	2,338	2,565	2,680	3,114	2,607	3,132	3,616	3,476	35,985

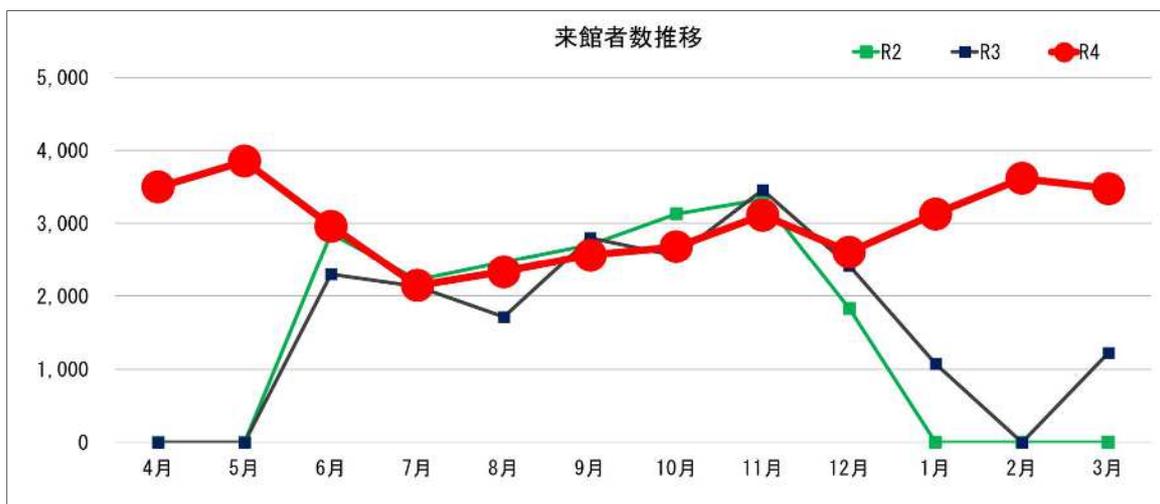


図1 情報館来館者数の推移